

猛暑が続いております！

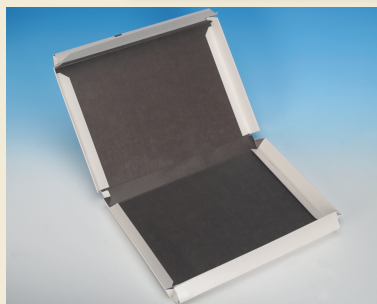
既に暑さでぐったりです…。とはいっても、お盆も過ぎ暦の上ではもう秋。今年くらい秋の待ち遠しい年はなかったです。でも、残り少ない夏もまだまだ楽しみたい!! 皆さんも、体調管理に気をつけて夏を乗り切りましょうね。

コマガタがおすすめる

商材のご紹介 vol.2

今月の商材は

カタログ用両サイド貼りケース



両サイド貼りのケースは、身フタ式のフタ箱でよく使われる形状です。箱の側面をのりづけしますので、組立が簡単になるというメリットがあります。また、身箱とフタ箱が一体になっている形状で印刷と加工が一箱分で済みますので、それぞれバラバラに作るより

コストが抑えられます。見開き形式ですので、キャラメル箱よりギフト感が出ます。箱の見た目も良いですので、化粧品のサンプルを送ったり、高級なお菓子を入れたりするのによろしいかと思います。(こちらで掲載している箱は、リンベル株式会社のカタログ用両サイド貼りケースです。)

お問い合わせ先は弊社営業までお気軽にお問合せください。分かりやすくご説明させていただきます！

スタッフブログ

分かりやすい日本酒パッケージ



夏は、「ビール」。冬は、「日本酒」が晩酌の私ですが、常にいい日本酒があればチャレンジしています。

先日、茨城に出張に行った時、コンビニで右の写真のような日本酒が目に入りました。パッケージのデザインテイストは全て同じですが、メーカーがそれぞれ異なります。また味の違いが分かりやすいように、品名を説明文にしています。味の違いが分からない日本酒初心者の方には、とても分かりやすい商品ですよ。色もコピーに合った色合いを選択して、判別しやすくなってるし。まとめて買って飲み比べても面白いかもしれません。



「コールド大関」は、地元の「やまや」で買った日本酒。「アルコール 7%でカロリーも40%オフ。」物珍しさで買ってしまいました。日本酒ヘビーユーザーの私としては、新しすぎる味でなじみませんでした。上の商品と同じように日本酒初心者の方には、いいかもしれません。最近、「かむのがめんどくさい」という消費者の声から生まれたロツテのフィッツというガムやノンアルコールビールなど、昔の嗜好とは明らかに異なる商品が売れていることを考えると、日本酒がどのような方向に進化していくのか?愛飲家として気になるところです。(駒形 和彦)





映像や印刷物からおいしいにおいがするとしたら…味の想像が捗るというもの。と一度は誰しもが考えたことがあるのではないのでしょうか。

擦ると香りがするものはありましたが、自分でにおいを選んで印刷するということがもしできたら…。そんなことを考えたデザイナーさん、やっぱりいましたよ！

<http://www.designboom.com/weblog/cat/16/view/22990/scent-capturing-postcard-printer-for-sony-by-li-jingxuan.html>

SONY が主催する学生向けのワークショップで発表したコンセプトモデルとして発表されたものですが実際香り付きのポストカードを印刷出来るそうです。プリンタの臭いを集める部分をサンプリングしたい料理やものに近づけて、専用用紙に内部にしみこませる作りだそうです。そのカードをめくると香りが楽しめるとのこと。サンプリングしたものがどんなにおいとして染みこんでいるのか、とても気になりますね。

こんな手のひらサイズの機械で面白いことが出来ると…なんだかその機械を分解したくなるのは私だけでしょうか…(笑) どちらにしろ、興味深い仕組みをもった機械がどんどん出てくるとなんだか楽しい気分になりますよね! <遠藤>



最近、自分がいいなと思うチラシやパッケージ、雑誌などを見た時にどうしていいなと思ったんだろうと深く考えるようになりました。

きっかけは会社の勉強会で「自分への宿題を何か考えましょう」となった時、チラシやデザイン本を集めて見るのが趣味だったので、それを活かして何か勉強をしようと考えたからです。実際に考えをまとめてみると、デザインは人によって好みが変わりますが、どんな人に向けて作っているのかなど細かい所をよく見ると、とても勉強になりデザインの面白さを再確認出来ている気がしています。

そして実際に仕事をする時にも「この前見たデザインの考え方使えるかも」とアイデアの引き出しが増えているように感じています。

まだまだ勉強中ですが、色々なデザイナーさん達が作った商品を先生だと思って日々努力していきたいと思っています。

<谷川>



「映画館にて」

撮影：近藤

先日、映画館で「この空の花」を観てきました。2時間40分で少し長かったので、バケツサイズのポップコーンが進みました。

箱屋豆知識

「ダンボールの色は何故茶色？」

基本的には段ボールの原紙の色そのままがクラフト色です。段ボール原紙はもともと何層もの紙から出来ていますが、色がついたものはその一番上に色のついた紙が貼りあわされている状態です。段ボールは外装用として用いられる場合が多いので、汚れを考えるとクラフト色が多いのかと思います。

